

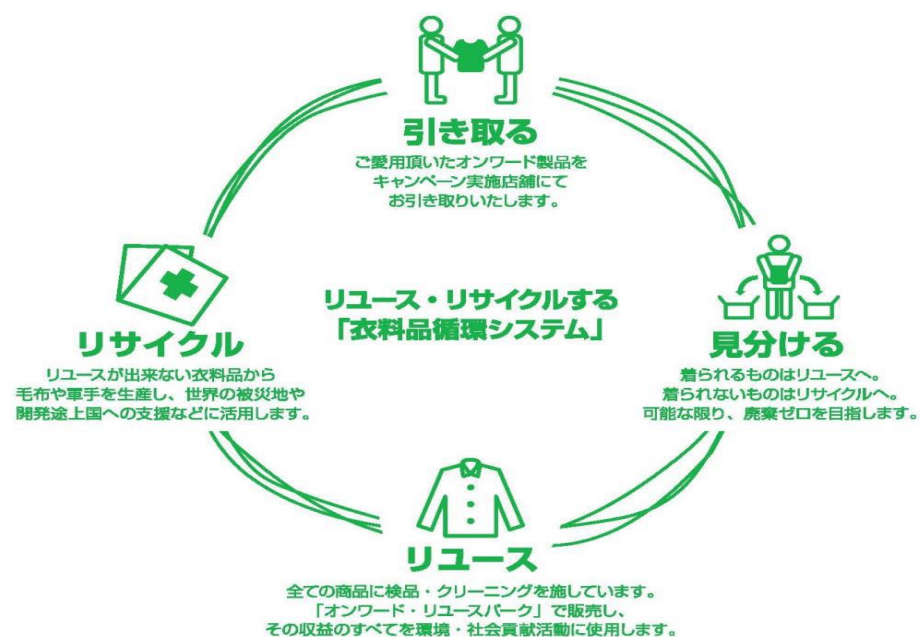
アパレル業界の環境配慮への取り組み

2023年 12月 25日

一般社団法人 日本アパレル・ファッション産業協会

理事長 鈴木 恒則

衣料品の店頭回収への取り組み



衣料品回収「オンワード・グリーン・キャンペーン」

“衣料品循環システムの構築を目指す”ため2009年秋スタート
お客様の不要な衣料品を回収し、リサイクル・リユースに活用

回収した衣料品は状態の良いものはクリーニング後、吉祥寺の「オンワード・リユース・パーク」で販売
それ以外はリサイクルして固形燃料や毛布・軍手を生産
毛布は日本赤十字社の協力のもと国内外の被災地や開発途上国への支援に活用

累計参加者数 1.414.399名

累計回収実績 7.361.319点



A D A S T R I A
Play fashion!



アダストリア 衣料品リサイクル「Play Cycle！」

国内の衣料品の3R率は30%未満とされ、多くが使用後、可燃ごみとして廃棄されている。こうした状況をお客様とともに改善するため、不要になった衣料品を回収しリサイクルする取り組みを2016年から行っている。回収した衣料品は、JEPLANおよび Green Down Projectにより再資源化。

回収実績 2023年 2月期 97.413点（重量 33 t）



ワールド「エコロモ」キャンペーン

“リユース、リサイクルを通じて衣料品の価値を最後まで無駄なく活かすこと”を目的に、2009年秋より、お客様の不要な衣料品をお引き取りしている。お引き取りした衣料品はリサイクルパートナーを通して国内・海外での再利用やリサイクルにつなげる。リサイクルパートナーからの引き取り金は支援を必要としている子ども達のための基金へ寄付

引き取り点数 2022年 1,022,170点 寄付額 3,286,584円
2009年～2022年合計 17,396,037点 寄付額 108,217,411円

TIMELESS WORK.
SANYO



三陽商会

衣料品回収キャンペーン「EARTH TO WEAR」

“お客様の不要な衣料品を少しでも回収して、新しい服をつくるための資源に循環させていく。2018年より活動。

回収した衣料品は、JEPLANおよび Green Down Projectにより再資源化。

衣料品の廃棄量極小化への取り組み



SARROWS ユナイテッドアローズのサステナビリティ活動

Circularity (循環するファッション)

- ・定価販売比率（プロパー消化率）の改善
- ・リサイクル・リユースの活用
- ・廃棄商品の極小化のため「KISARAZU CONCEPT STORE」に参加

Carbon Neutrality

Humanity



Circularity

循環するファッション

繊維製品の廃棄率（新設）			
2021	2022	2030	TARGET
--	→ 0.3%	0.0%	

商品の廃棄率			
2021	2022	2030	TARGET
1.0%	→ 0.4%	0.1%	

環境配慮商品の割合			
2021	2022	2030	TARGET
2.0%	→ 16.2%	50.0%	



Carbon Neutrality

カーボンニュートラルな世界へ

CO ₂ 排出量の削減率（Scope1.2）			
2021	2022	2030	TARGET
10.8%	→ 14.7%	30.0%	

CO ₂ 排出量の削減率（Scope3）			
2021	2022	2030	TARGET
17.0%	→ 14.6%	15.0%	

再生可能エネルギーの割合			
2021	2022	2030	TARGET
3.2%	→ 8.3%	50.0%	



Humanity

健やかに働く、暮らす

行動規範同意書の取得率			
2021	2022	2030	TARGET
11.6%	→ 48.2%	100.0%	

従業員エンゲージメントスコア			
2021	2022	2030	TARGET
69.8%	→ 70.0%	80.0%	

ゴールドウインの環境活動の3つの重要課題

「グリーンデザインの推進」…環境負荷軽減素材への移行

「脱炭素社会の実現」…再生エネルギーへの転換

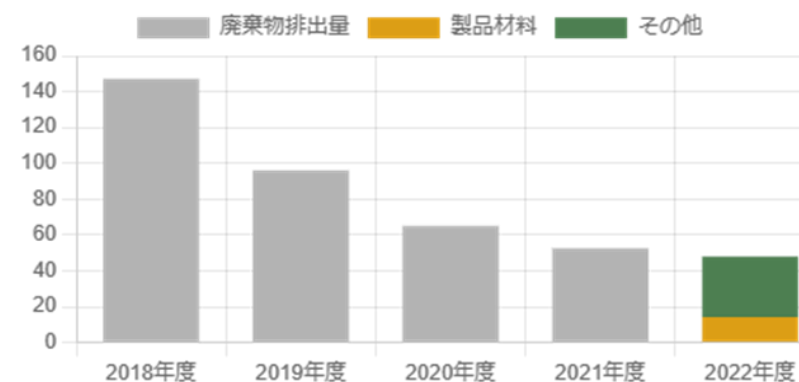
「循環型社会の実現」…ファッションロスゼロ



廃棄物の削減

当社の2022年度の産業廃棄物の排出量は47.9t。2021年度は52.5t。製品廃棄量の削減に加え、デッドストック材料の有効活用を推進することにより廃棄物量を削減する。また2022年度より廃棄物排出量の明細を「製品材料」と「その他」に分類し、より細かく管理することにしました。製品と材料の廃棄は全体の30%であり、ファッションロスに努めている。今後は廃棄物量のさらなる削減、及びサプライチェーンにおける廃棄物量を把握し、削減方法を検討することが課題。

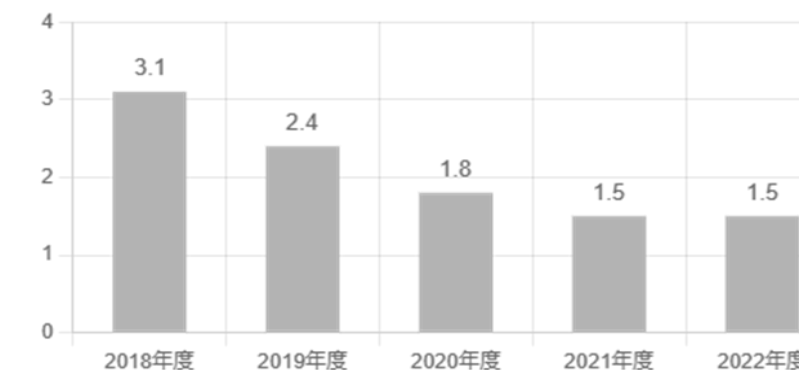
廃棄物排出量（t）



販売ロス率の低減による製品廃棄の削減

アパレル産業で大きな環境問題とされているのが、供給過剰による製品廃棄問題です。当社は2000年からの実需型ビジネスモデルへの転換を機に、発注流動管理を徹底し、調達総量を厳しく管理しています。また、販売期間中の迅速な在庫流動により、2022年度の販売ロス率を1.5%まで低減しています。

販売ロス率（%）



過剰供給の防止、適量生産への取り組み

（正会員企業 136社中 アパレルは99社 店持ちアパレル＊は57社 ＊販路：百貨店・SC・路面 自社で商品仕入れ量を決定）

アダストリア

「適量生産に向けた取り組み」

「適時・適品・適量」方針。商品を単品で管理することで追加発注および仕入れ抑制を適切に判断、ドットエスティでの先行予約状況を参考に発注精度を向上、販売計画をコントロールし、適量生産に努めている

バロックジャパンリミテッド

「作りすぎないものづくり」

品番数・SKU数の削減、QR等を活用した適正な商品調達を行うことで生産量を抑制
2030年までに「最終残在庫廃棄ゼロ・償却ゼロ」を達成することを目標として設定

TSIホールディングス

「生産量の適正化」

総消化率の改善に向けて、自社の強みであるECインフラデータ基盤等のデジタルツールやAI、3D CAD等新たなテクノロジーを活用しつつ、必要なタイミング・サイクルで、必要な量をお客様に届ける製造プロセスを構築

長く使えるものづくりへの取り組み

デサント 「10 YEARS POLO SHIRTS」

良いものを長くきていただきたいという思いから、10年の愛用を想定、200回の洗濯後も、縮みや型崩れ、変色を軽減できる商品を開発

「リペアセンター」

修理のお申し出への対応のためHP上に問い合わせ専用フォームを作成、従来よりも短期間で商品の不具合を解消し、お客様に返送

三陽商会 「長期着用推進」

オーナープラン付き商品「100年コート」では購入したコートの定期診断を行っている

トレーサビリティへの取り組み



J∞QUALITY

従来のMade In Japanを超え「織布・編立」
「染色整理」「縫製」などすべての生産工程を
日本国内で行った商品のみが「J∞QUALITY」



SANYOCOAT

企画 販売

株式会社 三陽商会

トレーサビリティQRコード



(織布) ダイワインターテック株式会社 埼玉県



(整理加工) 播州織工業協同組合 兵庫県



(縫製) 株式会社サンヨーソーイング 青森ファクトリー

協会としての取り組み

環境省「暮らしの10年ロードマップ」について協議会への参画



脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動

暮らしの全領域（衣食住・職・移動・買い物）を大きく7つの分野に分けそれぞれ見込まれる課題・ボトルネックに対応する取り組み・対策を明らかにしてロードマップに位置付けする。

当協会は【衣類】の協議に参画。

国民がサステナブルファッションを実践できる機会を大幅に拡大するとともに必要な情報の提供を行う。

環境省「アパレル業界のGHG排出量見える化ガイドライン」策定に向けた支援への参画



当協会とJSFA（ジャパン サステナブル ファッション アライアンス）が連携し、ファッション業界として主体的に行う取り組みに対する伴走支援。支援対象の取り組みとして「アパレル業界の多くの企業が活用することができる組織のGHG排出量見える化ガイドラインおよび事例集のアップデート」を想定

2023年10月キックオフ。2024年2月まで4回のWG開催予定。